

平成 30 年度 法人の執行状況報告（案）

【法人本部】

収支状況の悪化に伴う経費削減を主眼にとらえて、給与体系の見直し、各エリアの収入増加を図るべく、対策を練った。

給与体系の見直しについては、経費削減も伴うが、まずもって、初任給をアップすることにし、新卒者を中心とした人材確保を確立するための手立てとした。

経営改善に関しては、理事メンバーを中心に、メインバンク、会計事務所との打ち合わせを頻繁に行い、危機感を持って各エリアの収入アップの意識を高めつつある。

【岡之原エリアについて】

ピーク時に 110 名であった入所定員を、グループホーム等地域への移行を目指して縮減してきたが、さらなる増収を図るべく、期中ではあるが、2 月時点で 40 名へ変更した。就労系の各事業の売り上げの落ち込みがさらに顕著であった。生産計画から販売計画をトータルで見直すこととし、強みを活かした製品販売につなげていく。

【上福元エリアについて】

フル稼働に向けては保育士等の人材不足により困難となっているが、子どもたちの成長に向けて丁寧に寄り添う保育ができていると自認する。放課後等デイサービスの収支の安定化とあわせて、利用者家族に安心感を抱いていただけるよう更なる努力を続けている。

【草牟田エリアについて】

2 年目を迎え本格稼働といたいところであるが、人材確保の厳しさと利用者確保の難しさが相俟って、厳しい状況が続く。法人一丸となって乗り越えていく。

【企画事業部】

地域生活支援拠点開設 1 周年記念として、10 月に「瑞宝太鼓」公演を実施。近隣の小学生を対象としたワークショップも好評であった。

【監事監査】

5 月 25 日（金）

【理事会】

5 月 29 日（火） 8 月 13 日（月） 2 月 4 日（月） 3 月 29 日（金）

【評議員会】

6 月 14 日（木） 3 月 29 日（金）

【第三者委員会】

7 月 2 日（月）



平成 30 年度 ゆうかり学園 事業報告（案）

1. 事業報告

1) 施設入所支援

期首 44 名でスタートしたが、入院中の方 2 名を定員としてはカウントしないということ所管課に確認し 42 名。6 月に女性 1 名、11 月に男性 1 名が入所されたため期末 44 名となった。なお、12 月に長期入院中の男性が 1 名亡くなられた。同じく長期入院中の女性は、医療ケアが受けられる高齢者施設に待機登録中である。

また、期中ではあったが 2 月に入所定員を 40 名とし、2 名の方の地域移行を新年度にまたがり調整中である。

2) 生活介護

期首 69 名でスタートしたが、上述通り、入院中の方をカウントしないということで 67 名。新規利用者 3 名、転出等による退所者 2 名にて期末 68 名となった。生活介護の方の多くが加齢による機能低下が目立つようになり、徐々に介護の支援が増えていく。毎日のように通院が必要な方や、園内移動に車いすが必要になっているなど適切な介護が提供できることが必要になっている。区分の見直しも 5 名依頼したが、変動がみられる利用者がいないか引き続き注視していきたい。

3) 就労移行支援

就職に結びつくケースはなかったが、定着支援に向けて、支援を継続し生活上の悩みや職場での人間関係など支援者が相談に応じた。今後も、特別支援学校からの新卒者のためにも必要な事業であるので、事業継続のための方策を探る。

4) 就労継続 A 型

就労 A 型は今年度も期首 6 名で変化はない。ぽおくしょっぷ游花里での餃子作りが主な仕事となっている。一所懸命に働いているが、工賃のアップに結び付けられない状況が続いている。

5) 就労継続 B 型

期首 34 名でのスタート。就労移行支援からの利用変更者が 5 名。新規利用者 1 名退所者 1 名で、期末 39 名である。これまで就労系の日中活動はゆうかり学園では多くの作業種目があり、利用者の方の能力に応じた作業班に所属しており、その中でも中心的な日中活動としては畜産、園芸、であったが、生活介護でも述べた通り、高齢化による機能低下から無理ができない方が増えてきている。高齢化に向け配慮が必要な状況である。

日中活動報告

1) 園芸（蔬菜）

今年度も、安心安全でおいしい野菜を提供することを目標に掲げて、減農薬での野菜作りから可能な限り無農薬での野菜作りを念頭に置きながら活動に取り組んできた。利用者の皆さんにもその野菜作りに参加してもらいと充実した活動ができた。現在は主に餃子の具材としてタマネギ、白ネギ、キャベツを中心にして栽培しているが、その

他にも季節の野菜づくりにも取り組んでいるところである。

2) 園芸(花卉・果樹)

園内の花壇の美化は勿論、ゴルフ場、皆与志療護園などの花壇の管理をおこなって来た。施設外での活動で利用者の皆さんも楽しく参加してもらっている

果樹では、ミカン、ブルーベリーの栽培と、加工品(ジュース、ジャム)も例年通り取り組んだ。

また、ゆうかり保育園の園児たちの芋ほり、ミカン狩り、ブルーベリー狩りの場として今年も利用してもらい、楽しんでもらうことが出来た。

3) 畜産

かごしま黒豚の生産から加工販売まで一貫した畜産活動に取り組んできた。品質の高い肉の生産のため工夫した餌を与えるなど、肥育の充実を目指している。

また、黒牛の方は、全国的にかごしま黒牛の評価が高いことから、競り値も高値が続いている。これも毎日の管理を積極的に行ってくれる畜産部の利用者の皆さんのがんばりのおかげである。

4) 工芸(木工・竹工)

屋久杉の材料確保が難しいことから少人数での活動が続いている。今年度も屋久杉の小物を主に製作した。門松の製作は例年通り職員を中心に活動した。

竹工については、庭ほうきの材料の確保が課題になる中で、注文によりやく応じることが出来た。また、利用者の方で工程が出来る方が高齢になり、作業能力の低下が見られるようになってきている。

5) 紙工箱折り

めぐい、スプラウトシール貼りの注文を受けての活動が日々続いている。

お盆シーズンや正月前などの繁忙期には、他の活動班からの応援を貰いながら対応出来た。利用者の皆さんはそれぞれ一生懸命に作業されている。また毎週木曜日の手芸にもまじめに取り組まれていて充実した活動であった。

6) そうさく

健康の維持、管理に気をつけなければならない方も多く、まずバイタルチェックを毎朝、夕に必ず行い活動に入る。リサイクル活動では空きかん、ペットボトルの分別、圧縮作業、リサイクル活動のないときは散歩やレクリエーションを企画して活動している。今後もこれまでの活動の他に、利用者の皆さんが楽しめる活動を事前に企画して実行したい。

7) 生活介護

対象者が高齢や重度の障害のある方であることから、毎日の健康状態には気を配りながら、健康体操や、歩行散歩、リクリエーションなどを中心にした活動で今後も健康維持を第一に考えた支援をする。

8) ぽおくしょつぶ游花里

利用者の皆さんがそれぞれの持ち場で頑張って活動されている。餃子作りの技術も向上しているようであるこれにより、ぽおくしょつぶの安定した生産活動が続いているようである。仕事も慣れてきたとこで課題になっているお盆、正月の繁忙期のストック作りをみんなでクリア出来るようにしたい。

2. 職場実習及び施設外実習

平成 30 年度も、前年度同様にニッセイ鹿児島、ゆうかり保育園、久保水耕園、富士産業さんへの職場実習として受け入れをしていただいた。ユニットを組み職場へ通勤するなどの取り組みを行ってきた。金銭管理や余暇の過ごし方の課題であるので今後の支援が重要になってくる。

3. 平成 30 年度 活動報告

① 行事・研修会関係

月／日	行事	参加人数
4/6	利用者レントゲン検診	
4/9	ふれあいスポーツ広場・木下サーカス見学（10、17 日）	
4/15	ふれあいバザー	
4/19	県知的障害者福祉協会総会	
4/28	施設親善球技大会	
5/20	県障害者スポーツ大会	4
5/21	さくらじまサポート協会事務説明会	1
5/22	市指導監査説明会	4
5/24	市施設連絡協議会	
6/17	鹿児島地区知的障害施設職員球技大会	6
6/22	医療福祉専門学校ガイダンス	2
6/23	マイナビ就職セミナー	
7/2	鹿児島養護学校事業所説明会	2
7/5	集団指導	2
7/6	武岡台養護学校事業所説明会	3
7/10	西伊敷民生委員見学	18
7/13	安管講習	1
7/27	ビール祭り	
8/4	グループホーム利用者交流会	
8/10	夏祭り 家族会役員会・総会	
8/31	司法修習生受け入れ	
9/8	施設職員ソフトボール大会	14
9/8	明桜館高校体育祭	20
9/21	元気会	
9/23	鹿児島市ふれあいスポーツ大会	
9/25	月見会	
10/25-28	ハッピーフェスタ	
11/2	福祉の職場就職面接会	
11/3	おはら祭り	
11/11	わくわく福祉交流フェア	

11/16	川上地区民生委員ボランティア	18
11/18	農林水産まつり	
11/27	利用者忘年会	
12/1	地区障害者スポーツ記録会	
12/3	市施設連絡協議会	
12/5	県知的障害者福祉協会	
12/12	大相撲鹿児島場所観覧	
12/22	法人忘年会	
1/5	新成人を祝う会	1
1/12	さんさん会	2
3/9	木下サーカス贈呈式	10

②各種研修会

月／日	各種研修会	参加人数
6/19・20	新任職員研修会	2
8/9	人権擁護研修会	2
8/10	感染症研修会	1
9/11	給食施設従事者研修	1
9/11・12	強度行動障害支援者養成研修 基礎	1
10/4・5	強度行動障害支援者養成研修 基礎	1
10/18・19	強度行動障害支援者養成研修 実践	1
11/20・21	強度行動障害支援者養成研修 実践	1
12/18・19	相談支援従事者現認研修	2
1/10	虐待防止研修会	1
1/15・16	先進地視察研修（南高愛隣会）	4
1/19・20	保護者・職員との研修会	5
1/23	難病患者就労支援セミナー	1
1/29・30	サービス管理責任者研修	1
1/31・2/1	サービス管理責任者研修	1
2/18・19	強度行動障害支援者養成研修 基礎	2
3/14・15	強度行動障害支援者養成研修 実践	2

③研修生等の受け入れ状況

期間	所属	参加人数	実習内容
4/9～4/11	有限会社シンポート	1	介護福祉実務者
6/4～6/16	鹿児島国際大学	3	保育実習
6/18～6/22	鹿児島医療福祉専門学校	5	歯科衛生実習
7/9～7/13	鹿児島医療福祉専門学校	6	歯科衛生実習
9/3～9/7	鹿児島医療福祉専門学校	5	歯科衛生実習

9/10～9/22	鹿児島女子短期大学	1	保育実習
10/16～10/20	鹿児島医療福祉専門学校	5	歯科衛生実習
11/5～11/9	鹿児島医療福祉専門学校	5	歯科衛生実習
1/15～2/15	宮崎医療福祉カレッジ	1	社会福祉士養成
2/25～3/6	香蘭女子短期大学	4	保育実習
2/27～3/11	鹿児島純心短期大学	1	保育実習
3/18～3/27	香蘭女子短期大学	4	保育実習
9/27～10/2	家裁少年	1	短期補導委託
3/18～3/29	家裁少年	1	短期補導委託
5/11～5/22	鹿児島養護学校	1	産業現場実習
6/18～6/29	串木野養護学校	1	産業現場実習
10/9～10/19	鹿児島養護学校	4	産業現場実習
10/15～10/26	串木野養護学校	1	産業現場実習
11/5～11/6	高等特別支援学校	1	産業現場実習
7/4	鹿児島県警察学校生（高卒）	48	利用者との交流
10/10	鹿児島県警察学校生（高卒）	48	利用者との交流
2/4	鹿児島県警察学校生（大卒）	10	利用者との交流

担当 松山 大辻 大平 中原い

【平成 30 年度の反省と課題】

- ・学生研修受け入れについては、昨今の人材確保の厳しさを意識し、期間中の環境への配慮をはじめ、働きたい職場と思ってもらえるよう意識的にかかわった。
- ・短期補導受け入れについては、今年度は大きなトラブルもなく無事に補導期間を終えることが出来た。また、少年自身も自分が誰かの役に立てると実感できたと感想を話しており、利用者とのかかわりの中で少しずつ自信を持てたのではないかと感じられる。

④短期入所利用状況

月	利用人数	利用日数	月	利用人数	利用日数
4 月	3	58	10 月	5	73
5 月	4	48	11 月	2	41
6 月	3	49	12 月	2	33
7 月	2	35	1 月	2	46
8 月	3	62	2 月	3	50
9 月	4	66	3 月	3	38

【平成 30 年度の反省と課題】

- ・所持品管理を徹底することによって、紛失を防ぐことが出来た。

※ 9 月 28 日（金） 指導監査 （文書 0 件 口頭 2 件）

※ エアコンの修繕等、順次実施したが、今後、食堂の椅子、各居室の破損箇所についても、費用充当を計画的に実施していく。

平成 30 年度 グループホームゆうかり 事業報告（案）

1. 事業報告

1) たんぽぽ・もくれん

末期癌のため闘病生活を送られている方が 1 名（入退院を繰り返している）。ハイバックの車いすにて座位保持の方が 1 名。夜勤者を配置するホームのモデルケースとして支援体制構築中。

2) わかたけ荘

2 名の入居者の方がアパート暮らしを希望され、実現に向けて検討を重ねてきたが、職場との移動距離等、希望と折り合わない状況が続く。

3) あじさい・びおら

高齢化に伴い、学園周辺に引越したいとの要望が多くあった。一方、就労者には交通の便が良いため、卒業して間もない方のニーズは高く、今後の支援体制を要検討。

4) 第 2 わかたけ荘

女性利用者と、他施設の男性利用者との関係にて見守り等支援継続中。

5) わかば

日中活動への参加が困難な利用者への見守り支援継続中。

6) きんもくせい

職員不在時の癲癇の発症などの可能性があるため、今後の夜間支援体制について要検討。

7) さざんか

夜間の巡回回数を増やすなど、他の利用者への暴言が酷い方に対する声掛けと見守りを継続中。

8) さくら荘

近隣からの苦情のため転居先を探している。物件が見つかり次第解約、転居先との契約を進める予定。

監査指摘事項

9 月 12 日（火） 実地指導 （4 件）

平成30年度 地域生活支援拠点ゆうかり 事業報告（案）

【1】運営の基本方針 各事業共通

《事業名》

『生活介護』『共同生活援助・短期入所』

『一般相談支援、特定相談支援、児童（障害児）相談支援』

『居宅介護、重度訪問介護、行動援護、移動支援等』

『鹿児島市障害者地域生活支援拠点事業（安心コールセンター機能）』

地域で暮らす一歩を安心して踏み出すための拠点として、障害のある方々が住み慣れた街で心から安心して暮らすことできる地域づくりを推進します。それが当たり前になる未来を目指して、様々な支援を切れ目なく、不安なく提供できる仕組みづくりを進め、障害のある人もない人も共に歩んで行く場所を目指します。

【2】平成30年度の概要

◎拠点事業全体

平成31年3月31日現在

事業	定員	期首	現員
共同生活援助 （くろーばー）	6名	6名	6名
共同生活援助 （すみれ）	6名	6名	6名
共同生活援助 （くるみ）	6名	2名	0名
短期入所 （あすてっぷ）	4名	※内1床は空床補償	1名 空床分
生活介護 （ぱすてる）	20名	23名 契約者数	20名 契約者数
特定相談 （『くればす』）	—	186名	186名
児童相談 （『くればす』）	—	36名	34名
居宅等 （『くればす』）	—	3名	3名

【3】各事業報告

○生活介護 ぱすてる 定員20名

1) 事業報告 担当職員：山口

生活介護は、20名定員で平成29年10月に事業開始。30年度は契約者数 14名・稼働率70%を目標としてスタートした。平成31年3月31日現在で、20名の契約者を得ることが出来た。契約者の内、12名の方は曜日を限定して利用しているため稼働率の伸びは小さかった。

月案・週案・一日のスケジュールを確認してもらい、楽しみを感じて通所して頂けるように支援している。

食に関わる活動では、都市農業センターの市民農園を借りて野菜を育てた。野菜は昼食の材料やおやつ作りの材料として活用した。食べる事の好きな方は、昼食作りに意欲的に関わってくださり、苦手な食べ物の多い方は、克服しようとチャレンジする姿が多く見られ、保護者の驚きの声が多く寄せられた。

社会見学プログラムでは、鹿児島島の歴史や催し・NHK見学など一年を通し様々な場所へ出かけたが、多くの方がイオンモール（大型商業施設）での買物活動を再度希望されていた。ご家族からは、今まで家族の後ろをついて歩いていた子が親の前を歩き、外出を楽しめるようになったと喜ばれる声も頂いている。

平成31年1月からはコーヒー・餃子販売を始めているが、販売のスタイルが整い定着するまでしばらくかかる様子がある。今後、販売する楽しさを感じてもらい意欲的に取り組める活動となるように支援内容を工夫していく。

2) 利用状況

平成30(2018)年度 生活介護事業(ぱすてる) 事業報告(利用者数・稼働率等)							
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
開所日数×20(定員)	400	420	420	420	400	360	
開所日数	20	21	21	21	20	18	
利用者延べ数(名)	195	208	212	219	214	184	
平均実利用者数	9.8	9.9	10.1	10.4	10.7	10.2	
稼働率	48.8%	49.5%	50.5%	52.1%	53.5%	51.1%	
平均区分	5.4	5.4	5.4	5.2	5.2	5.2	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計
開所日数×20(定員)	440	420	380	380	380	400	4820
開所日数	22	21	19	19	19	20	241
利用者延べ数(名)	236	227	200	189	213	227	2524
平均実利用者数	10.7	10.8	10.5	9.9	11.2	11.4	10.5
稼働率	53.6%	54.0%	52.6%	49.7%	56.1%	56.8%	52.37%

3) 実習生受け入れ状況

期間	男性	女性	所属	趣旨
H30年 6/18 ～H30年 6/22	1		武岡台養護学校	産業現場等における実習
H30年 6/18 ～H30年 6/22		1	鹿大附属 特別支援学校	産業現場等における実習
H30年 9/25 ～H30年 10/5		1	武岡台養護学校	産業現場等における実習
H30年 10/12 ～H30年 10/19	1		県立鹿児島養護	産業現場等における実習
H31年 1/15 ～H31年 1/18	1		武岡台養護学校	産業現場等における実習
H31年 1/21 ～H31年 1/21	1		武岡台養護学校	産業現場等における実習
H31年 2/12 ～H31年 2/15	1		武岡台養護学校	産業現場等における実習

4) 短期補導委託受け入れ状況

期間	男性	女性	所属	趣旨
H30/7/5～7/12		1	家庭裁判所	社会奉仕活動
H30/9/27～10/2	1		家庭裁判所	社会奉仕活動

○共同生活援助 地域生活支援拠点ゆうかり（くろーばー・すみれ・くるみ）

定員：6名×3ホーム＝18名

1) 事業報告 担当職員：沖崎

平成30年4月より、“すみれ”を開所したことで、くろーばー6名、すみれ5名で期首は定員14名に対して現員11名での年度スタートとなった。

平成30年12月に、共同生活援助及び短期入所の定員の見直しを行い、拠点の2階部分を新たな男性ホームとして、くるみを定員6名で事業申請した。あわせて、3階と4階のグループホームの定員を各7名から6名へ変更。さらに、2階で運用していた短期入所を3階と4階に各2名（部屋）ずつとして、定員を6名から4名（内1名分は拠点での緊急一時保護のための空床）へ変更した。12月初、雇入予定であった世話人が急遽雇入出来ない状況となり、人員基準が満たせずに平成31年3月末まで実働できていない状況となった。

平成 30 年 12 月には共同生活援助（体験）の支給決定を受けて、5 日間利用した女性もいた。

平成 31 年 2 月より、すみれに女性が 1 名入居されたことで、4 階及び 3 階のホームは各定員 6 名が満床となっている。平成 30 年度の期末は定員 18 名に対して現員 12 名となった。

平成 31 年度は、男性 GH くるみを満床にすることが最大の目標となっている。4 月から 2 名の入居が決まっている。これまでに拠点へ見学・来所された方へ、順次情報提供及び確認中。その他、4 階のホームから移動を希望する方がいないか、くるみの実働後に随時意向を確認していく。2 階へ移動を希望する方がいれば、4 階への入居を希望している新規の入居者を調整していく予定。

2) 利用状況

平成30年度 共同生活援助 事業報告							
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
件数 (利用人数)	11	11	11	11	11	11	
開所日数	30	31	30	31	31	30	
定員(14~18) ×開所日数	420	434	420	434	434	420	
利用日数	279	280	284	287	278	284	
稼働率	66.4%	64.5%	67.6%	66.1%	64.1%	67.6%	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計
件数 (利用人数)	11	11	12	11	12	12	135
開所日数	31	30	31	31	28	31	365
定員(14~18) ×開所日数	434	420	558	558	504	558	5594
利用日数	303	283	280	279	283	330	3450
稼働率	69.8%	67.4%	50.2%	50.0%	56.2%	59.1%	62.4%

○短期入所 あすてっぷ 定員 4 名（内 1 床は緊急一時保護用に空床補償）

1) 事業報告 担当職員：沖崎

平成 30 年 12 月に、6 名から 4 名へ定員変更を行う。定員変更に伴い、受入フロアも 2 階から 3 階すみれ及び 4 階くろーばーへ変更となる。

順調に契約者数は増えているが、実利用に至っていない方が多い。利用ニーズの



比較的低い平日に、定期的な利用を増やしたい。体験的な利用の具体的な提案を呼びかけて、稼働率アップに努めたい。また、受入に関するルール設定を明確化して、必要な業務の整理や簡素化を図り、受入業務が負担となり、消極的にならぬよう、準備と創意工夫を重ねていきたい。

2) 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
開所日数 × 定員	180	186	180	186	186	180	
開所日数	30	31	30	31	31	30	
利用日数	14	16	29	28	32	33	
単位数	8,881	9,495	15,147	16,823	18,249	20,825	
平均 利用人数	0.47	0.52	0.97	0.90	1.03	1.10	
稼働率	8%	9%	16%	15%	17%	18%	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間 合計or平均
開所日数 × 定員	186	180	124	124	112	124	1948
開所日数	31	30	31	31	28	31	365
利用日数	38	35	27	19	11	50	332
単位数	14,059	17,396	20,806	10,120	6,175	23,963	181,939
平均 利用人数	1.23	1.17	0.87	0.61	0.39	1.61	0.91
稼働率	20%	19%	22%	15%	10%	40%	18%

○一般相談支援、特定相談支援、児童相談支援 相談支援事業所『くればす』

1) 事業報告 担当職員：塩満、福留

鹿児島市在住の障害児（者）および保護者等からの相談支援、電話相談、訪問相談、関係機関との連携などを行ってきた。

計画作成が主で、電話相談、訪問相談、同行相談、来所による相談等を実施している。内容としては計画作成依頼、福祉サービスの利用についての相談、本人の不安の解消、情緒安定に関する支援が多かった。

平成30年5月に相談支援専門員を新規採用し、専従が2名と兼務が1名の3人体制となった。同年9月に休止中であったサービスセンター『くればす』の再開があり、現在は専従2名の相談支援体制となっている。

法改正の関連で標準モニタリング回数が増え、事務業務も煩雑となり、個別な対応に時間が割けない状況もある。加えて、地域生活支援拠点での緊急対応等が重なると、本来業務である基本相談や計画相談が困難になることもあった。一人で抱え込んでの対応にならぬように、事業所間での連携と地域の関係機関との協働を図りたい。

2) 利用状況

指定特定相談支援・児童相談支援 実績集計(平成30年4月～平成31年3月)

		H30.4	H30.5	H30.6	H30.7	H30.8	H30.9	H30.10	H30.11	H30.12	H31.1	H31.2	H31.3	件数
全体	サ等計画	17	7	8	17	9	6	9	4	6	11	11	8	113
	サ計・モニ	18	12	25	16	24	25	18	16	27	20	21	27	249
	児支計画	7	1	5	2	8	1	4	2	2	0	5	0	37
	児計・モニ	3	3	2	5	6	12	2	3	2	5	1	3	47
													全総件数	446

(注)「サ等計画」「サ計」…『サービス等利用計画』 「モニ」…『モニタリング』

「児支計画」「児計」…『児童支援利用計画』

平成30(2018)年度	利用者(前年度比)
特定相談	186(+7)名
児童相談	36(-1)名
合計	222(+6)名

※平成31年3月末時点の利用者数(初回の計画請求まで至った利用者総数)

○在宅支援サービス(居宅介護、重度訪問介護、行動援護、同行援護、移動支援)

サービスセンター『くればす』

1) 事業報告 担当職員：鳥丸

支援体制の充実に関しては、効率的に業務に当たる事ができるような記録の整備、計画的な研修の実施、会議の定期的開催、文書等による指示及びサービス提供後の報告、熟練した居宅介護従事者の同行による研修等をおこなってきた。より良い支援を行う為高い目標を定めていく必要がある。

支援体制の確立に関しては、登録ヘルパーの仕組みを取り入れる事は出来なかった。別の方法で、より多くの方々に多様で安定的なサービスを提供する体制を確立する必要がある。

地域連携に関しては、バックアップ拠点(地域生活支援拠点ゆうかり)内及び地域の関係機関との連絡体制の強化は不十分だった。拠点内にある事業所として広い視野を持ち、体制を整えていく必要がある。

2) 利用状況



H30(2019)年度 サービスセンター『くればす』 居宅介護等 実績								
サービス名		件数 H30.4	件数 H30.5	件数 H30.6	件数 H30.7	件数 H30.8	件数 H30.9	
居宅介護 (身体介護)	件数	0	0	0	0	0	0	
居宅介護 (家事援助)	件数	0	0	0	0	0	0	
居宅介護 (通院等介助 身体介護有)	件数	0	0	0	0	0	0	
居宅介護 (通院等介助 身体介護無)	件数	0	0	0	0	0	0	
居宅介護 (通院等乗降 介助)	件数	0	0	0	0	0	0	
重度訪問介護	件数	0	0	0	0	0	0	
行動援護	件数	0	0	0	0	0	0	
移動支援 (身体介護 有)	件数	0	0	0	0	0	0	
移動支援 (身体介護 無)	件数	0	0	0	0	0	0	
サービス名		件数 H30.10	件数 H30.11	件数 H30.12	件数 H31.1	件数 H31.2	件数 H31.3	合計
居宅介護 (身体介護)	件数	0	6	10	10	10	22	58
居宅介護 (家事援助)	件数	0	0	0	0	8	6	14
居宅介護 (通院等介助 身体介護有)	件数	0	0	0	0	0		0
居宅介護 (通院等介助 身体介護無)	件数	0	0	0	0	0		0
居宅介護 (通院等乗降 介助)	件数	0	0	0	0	0		0
重度訪問介護	件数	0	0	0	0	0		0
行動援護	件数	0	0	0	2	3	6	11
								83
移動支援 (身体介護 有)	件数	0	0	0	0	0	0	0
移動支援 (身体介護 無)	件数	0	0	0	0	0	0	0
								0

○鹿児島市障害者地域生活支援拠点事業（安心コールセンター）

1）事業報告

24時間365日、緊急時の対応や体験の場の提供等のコーディネート業務を行ってきた。2年目を迎え、地域ネットワークも構築されつつあるが、困難事例を通して課題も多くなっている。鹿児島市行政及び基幹センターが開所していない時間帯の対応力が肝になっているため、法人内外の協力を経ながら体制を整えていく。

2）利用状況 ※障害者地域生活支援拠点実績報告書 次頁参照

障害者地域生活支援拠点実績報告書(平成30年4月～平成31年3月分)

1. 地域生活支援拠点	相談件数			(単位: 件)
		(a)相談件数		
(d)全体		256		
(e) dのうち時間外		93		
2. 相談内容の内訳				(単位: 件)
①家族等養護(介助)者の疾病等による急な不在	②身体機能・行動上の制約から自宅等での生活が困難となった場合	③知的障害における行動障害や情緒不安定等により自傷・他害の恐れのある場合	④精神障害者における精神的不安等に伴う一時的な避難等	
7	9	3	28	
⑤福祉サービスの利用等	⑥障害や病状の理解	⑦健康・医療	⑧不安の解消・情緒安定	
83	1	2	23	
⑨保育・教育	⑩家族・人間関係	⑪家計・経済	⑫生活技術	
0	8	10	2	
⑬就労	⑭社会参加・余暇活動	⑮権利擁護・成年後見制度等	⑯その他	
1	0	21	58	
3. 1の拠点相談件数の内、緊急相談・緊急一時受入件数				(単位: 件)
	(a)相談件数	(b)aのうち、緊急相談	(c)bのうち、緊急一時受入	
(d)全体	256	66	11	

【4】職員研修等

平成30(2018)年

8/10 感染症講演会 1名 看護師

8/24 衛生推進者養成講習 1名 サービス管理責任者

平成30(2018)年

2/18-19 強度行動障害支援者養成研修 基礎研修 2名 生活支援員

3/14-15 強度行動障害支援者養成研修 実践研修 2名 生活支援員

他

【5】平成30年度の全体所感

地域生活支援拠点が開所して1年6ヶ月が経過した。基本事業である共同生活援助の定員変更及び満床、生活介護の新規利用者を増やしてベースとなる活動の確立を目指してきた。短期入所は、定員や受入フロアの変更を行った。各事業、フル稼働するために必要な課題が多くみつかった。相談支援は、新たな相談員が加わり体制を再構築した。鹿児島市障害者地域生活支援拠点事業は、2年目を迎え、課題は多いが、行政機関及び地域の関係機関との連携を図りながら事業展開できた。

【6】職員数(平成31年6月1日現在)

28名(男11名・女17名)(正規9名・非正規19名)



平成 30 年度 ゆうかり保育園 事業報告（案）

I 【全体所感】

平成 30 年度は 70 名定員に達した時点で、例年より少ない人数でスタートした。在籍する子どもの成長発達への援助や、保育士のキャリアアップの向上に努めた。キャリアアップ制度が導入されたことで職員の知識・技術の向上が図れ、処遇改善がなされることで、職員のモチベーションアップに繋がるが、研修が二日間に及ぶことから、勤務体制や職員確保という新たな課題が生まれた。保育の現場では保護者の協力のもと、運営や行事がスムーズに進み、また子どもの成長を保護者と共有、共感しながら保育することができた。

待機児童が多い地域にあるが、まずは在籍している子どもたちの心身の健康を支え、障害の有無に関わらず十分な保育、対応が出来る状態を作り、新年度は一人でも多くの園児を受け入れられるよう努めたい。

II 【在籍園児の状況】

園児の状況（平成 31 年 3 月 31 日現在）✿ 73 名

0 歳児		1 歳児		2 歳児		3 歳児		4 歳児		5 歳児		全体	
たんぽぽ		いちご		さくらんぼ		うめ		もも		さくら			
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
4	4	6	6	5	6	6	4	9	9	6	8	36	37

園児の状況（令和元年 5 月 1 日現在）✿ 74 名

6 月 30 日（77 名予定）

0 歳児		1 歳児		2 歳児		3 歳児		4 歳児		5 歳児		全体	
たんぽぽ		いちご		さくらんぼ		うめ		もも		さくら			
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0	2	8	6	7	8	6	7	6	6	9	9	36	38

障害児等（平成 31 年 3 月 31 日現在）

障害児		軽度障害児		療育支援児	
男	女	男	女	男	女
1	4			1	1

障害児等（平成 31 年 5 月 1 日現在）

障害児		軽度障害児		療育支援児	
男	女	男	女	男	女
	4				1

Ⅲ 【行事の実施状況】

・うめ→年少組 ・もも→年中組 ・さくら→年長組

月	日	行事内容	備考
4	2	入園式	新入園児及び保護者
4	14	保護者会	保護者
4	15	ゆうかり学園うれあいバザー	さくら組
4	17	グリーンカーテン植樹祭	さくら組
5	18	親子遠足（平川動物公園）	全園児及び保護者
5	27	清掃活動	保護者（父）
5	28	芋の苗植え	もも組
6	8、22	ふれあいスポーツランド プール	もも組・さくら組
7	6	ブルーベリー摘み	うめ組
7	14	お泊り保育	さくら組
8	4	西谷山夏祭り（地域の祭り）	もも組
8	9	そうめん流し	3歳以上児
8	25	卒園児同窓会プログラム	H30年3月卒園児（新1年生）
9	18	ゆうかり学園 敬老会	さくら組
9	22	親子レクレーション（ふれスポ）	全園児及び保護者
10	19	コスモス遠足（慈眼寺公園）	3歳以上児
10	20	親子クッキング	さくら組親子
11	3	おはら祭り	さくら組・保護者・卒園児希望者
11	7	交通安全教室	3歳以上児
11	8	芋ほり	もも組
11	15	収穫祭	3歳以上児
11	16	みかん狩り	うめ組
12	16	発表会（国際大学）	全園児及び保護者
1	9	もちつき	3歳以上児
1	26	保護者サークル	保護者
2	2	豆まき	全園児
3	8	お別れ遠足	全園児
3	16	卒園式	全園児及び卒園児保護者

◆毎月 誕生会、スポーツ教室（外部講師）、読み聞かせ（外部講師）、英語（外部講師）
避難訓練、身体測定、食育・クッキング

◆鹿児島市立図書館移動図書館（年間20回）

◆保護者サークル（年間2回）保護者・職員

◆内科検診 6月6日（水）、10月3日（水）【年2回】 ゆあさこどもクリニック

◆歯科検診 11月9日（金） 【年1回】 フォレストデンタルクリニック

IV 【職員研修状況】

研 修 名	開 催 期 日	開 催 場 所	参加 人数	キャリア アップ
保育園協会全体研修会	5月26日	建設センター	2	
食育・アレルギー研修会Ⅰ	6月14日	サンロイヤルホテル	1	○
南ブロック 保育実技研修 栄養士研修	6月23日	国際大学 谷山市民会館	1 1	
第32回保育を高める研究集会	6月27～28日	奄美観光ホテル	1	
保健衛生・安全対策研修会	①7月18日 ②12月18～19日	鹿児島県青少年会館 自治会館	1 1	○
保護者支援・子育て支援研修	8月8日～9日	自治会館	1	○
幼児教育研修会	9月6～7日	市民文化ホール	1	○
食育・アレルギー研修会Ⅱ	9月12日	自治会館	1	○
保育実践研修会Ⅰ、Ⅱ	10月1日 2月21日	自治会館	1	○
南ブロック保育研修	10月27日	国際大学	1	
マネジメント研修	①10月15～16日 ②12月25～26日	奄美の里 自治会館	2 1	○
第44回保育総合研修会	1月23日～25日	神戸市ANA クラウンホテル	1	
保育園協会全体研修会	1月26日	市民文化ホール	2	
保護者支援、子育て支援研修	1月28～29日	建設センター	1	○
児童福祉施設等研修会	2月4日	市民福祉プラザ	1	
乳児保育研修会	2月7日～8日	市民文化ホール	1	○
新入職員研修会	2月26日	市民文化ホール	1	
南ブロック保育士研修 給食研修	2月23日	国際大学 谷山市民会館	1 1	
南ブロック保育士研修	2月24日	国際大学	1	

※キャリアアップ研修

保育士がキャリアアップを図りやすいように目的毎に指針を決め、研修を実施する制度。

V 【実習生等、職場体験他受入状況】

実 習 日	学 校 名	(人数) 名前	
5月1日～5月11日	鹿児島看護専門学校	4名	★
5月28日～6月9日	鹿児島純心女子大学	1名	★
6月11日～6月19日	鹿児島看護専門学校	4名	★
6月18日～6月22日	大島養護高等学校	1名	★
7月2日～7月13日	福岡こども専門学校	1名	★
7月26日～8月17日	小中学生、高校生 大学生	総数22名	◎
8月20日～9月1日	純心女子短期大学校	1名（2回目）	★
8月20日～9月1日	鹿児島女子短期大学	1名	★
8月20日～8月31日	鹿児島城西高等学校 福祉共生専攻科	1名	★
11月6日～11月9日	鹿児島実業高校	1名	☆
2月12日～2月25日	鹿児島純心女子大学	1名（2回目）	★
2月15日～2月27日	鹿児島女子短期大学	1名（1回目）	★
2月27日～3月12日	長崎大学2年生	1名（1回目）	★
2月21～2月22日	鹿児島国際大学	26名	■

★実習 ☆職場体験 ◎ボランティア ■実習前研修

VI 職員数

◆職員体制 平成31年4月1日 現在

	H30 年度	H31 年度
園長	1名	1名
主任	1名	1名
保育士（常勤）	10名	10名
保育士（非常勤）	10名	13名
計	22名	25名
栄養士（常勤）	1名	1名
調理員（非常勤）	1名	2名
事務（非常勤）	2名	2名
職員合計	26名	30名

VII 【監査結果】

平成30年9月8日（火）実施 文書指摘 3件 口頭指摘 0件

【基本情報】

平成31年 4月1日 現在

定員 70名(110%枠にて 81名まで受入可能)

対象 0歳～5歳

- * 通常保育 開園時間 7:00～18:00 (休園日 日・祝・12月29日～1月3日、3月31日)
- * 延長保育 18:00～19:00
- * 障害児保育

平成 30 年度 そだち支援センタースケッチ 事業報告（案）

【1】利用状況

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
開所日数	94 日	229 日	241 日	244 日
延べ利用者数	59 名	632 名	967 名	1473 名

【2】利用者の状況

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
登録児童数	3 名	12 名	16 名	27 名

【3】活動内容

季節や学校行事に合わせた内容や、児童が楽しめそうな内容でまたスタッフも興味がある活動をそれぞれ 1 ヶ月単位で計画した。児童によっては不得手な内容もあったが、取り組みやすい手段や活動に参加しやすい役割などを提案し工夫した。平日は 30 分、長期休暇は 1 時間程度の活動であるが、児童全員が可能な範囲で同じ場で過ごせるよう支援した。

	活動	内容
4 月	春休みプログラム たてものたんけん 工作	いちご大福作り たてもの内ルールの確認 レインボースケッチ
5 月	体を動かして遊ぼう かんたんクッキング リクエスト活動	スケッチドッジボール たい焼き 輪回し・輪くぐり

6月	体を動かして遊ぼう 水鉄砲であそぼう じゃっどクイズ選手権	背中でキャッチ 雨が降っても楽しもう 鹿児島にまつわるクイズ
7月	ミニミニゲーム 夕涼み会（おたのしみ会） 夏休みプログラム	神経衰弱スケッチ版 焼きそば作り・花火大会 あやつりロボット等
8月	夏休みプログラム	工場見学・工作「パッケラン プ」等・焼肉ランチ
9月	ミニミニゲーム 体を動かして遊ぼう 十五夜クッキング	けんけん相撲 ふうせんリフティング じゃんぼ餅
10月	体を動かして遊ぼう ハロウィーン工作 ミステリーツアー	障害物リレー 魔女の帽子作り 暗闇の中のツアー
11月	プラコップ工作 リフレッシュ活動 秋だ、くだものだお買い物	コップがコースターに カンカン卓球 果物カット体験
12月	クリスマス製作 おたのしみ会 冬休みプログラム ＊体験・見学日	手作りクリスマスツリー ゲームでプレゼントゲット 杵と臼で餅つき大会 お正月アレンジメント
1月	冬休みプログラム おたのしみ会 ＊保護者茶話会 ミニミニゲーム	お正月遊び 焼きもち・ぜんざい作り ふうせんホッケー
2月	豆をまいて鬼たいじ バレンタインクッキング スケッチサイエンス	鬼のお面 2018 版 チョコボン菓子 静電気を集めよう
3月	ひな祭りクッキング たわわでランチバイキング おたのしみ会 春休みプログラム	雛あられ作り バイキングランチ ころころ止まれゲーム 温泉外出

【4】保護者会関連

月日	時間	内容	参加人数
8/31(金)	17:00～19:00	・スケッチ閉所への経過 ・草牟田 放課後等デイサービス開所について	8名
10/13(土)	10:30～12:00	・新規利用者獲得のためのご意見、ご要望	11名
11/17(土)	10:30～12:00	・理事会後の存続の可否について ・長期休暇のサービス提供時間の延長提案 ・土曜日の不定期開所について	9名
3/16(土)	13:00～14:30	「保護者プチ研修会」 ・基幹センターの相談支援専門員さんへ質問してみましょう	5名

【5】研修状況

月日	外部（主催）・内部	内容	参加人数
9/17(月)	外部（自立支援協議会）	相談支援と意思決定の支援について	1名
10/6(土)	外部（日本ストレスケア協会）	発達障害をもつわが子が教えてくれたこと	1名
1/31(木)	外部（鹿児島市南部子どもの発達を支援する連絡会）	・通級指導教室について ・幼稚園・小学校・中学校への繋ぎと連携について	1名

【6】総括

事業所の存続を検討し続けた1年間であったが、保護者に対して経営主体の基盤について法人としての方向性を指し示すことや事業所内においても職員内での経営に対する認識について確認できた。11月から試行的に土曜開所も行い、保護者からの意見集約や送迎パターンを検討した。保護者からの事業所に対する評価や要望をもとに反映できることは行い、けがや苦情に対しては迅速に誠意をもって対応するように心がけた。新規契約は口コミによるものが大多数であったが、児童本人が当事業所の話題を伝えてくれて新規契約に繋がったケースもあった。運営の安定のためにも、活動内容の充実と共に広報や営業に対して事業所・法人が一丸となって取り組みたい。

